

IIP 部門学生サマースクール 2019 報告

東洋大学 松元明弘

8月10日(土)～11日(日)に日本製鉄鹿島製鉄所^{につぼん}の見学および鹿島人材育成センターにてIIP部門サマースクール2019を実施しました。

参加は、東京電機大学・工学院大学・東洋大学の3大学から5研究室の参加で、内訳は、教員6名、学生61名(学部4年が42名、修士1年が13名、修士2年が6名)、合計67名の事前申込みで、うち、学部生2名が当日欠席でしたので実参加者は65名でした。

初日は東京駅鍛冶橋駐車場にて集合し、専用バス2台で鹿島に向かいました。到着後は、まず鹿島人材育成センターにチェックインし、昼食を摂った後、同センター大ホールにて会社概要説明を受け、その後、専用バス2台に分かれて転炉と熱延工程を見学し、途中で高炉前にて記念写真を撮影しました。参加者は鉄の製造過程を目の前で見ることができ、その熱さや振動を体験して圧倒されたようでした。

その後、同センターに戻り、同社生産技術部主幹の大賀信太郎様に、「製造を支える高度IT活用」というタイトルで、製鉄を取り巻く様々な分野でのIT/IoT/AI活用の事例、およびIT人材育成に関して解説していただきました。見学会の直後の疲れもありながら多くの学生は興味深く聴講しており、学生たちは新たな知見を得たと思います。

夜は同センターにて懇親会を実施しました。ポスター発表用に事前に振り分けた班別のテーブルで懇親を深めました。異なる研究室のメンバーが含まれるように振り分けたため、最初は会話がぎこちないところもありましたが、すぐに打ち解けていきました。

翌日は同センターのセミナールームと中教室Bの2室に分かれてポスター発表を行いました。最初は班の中で互いにプレゼンでした。前日のアイスブレイキングによりコミュニケーションはスムーズでした。その後、他の班のプレゼンを聴講するために、偶数番と機数番でコアタイムを設けて、全体的なポスター発表を行いました。なお、他の人の発表を聞いた後、○よい点、△改善すべき点のいずれか、または両方をポストイットに貼るよう指示しました。学生は貰ったコメントを今後の研究に活かしてくれることを期待しています。

その後、同センター前にて全員の集合写真を撮った後、専用バスで東京駅に向かい、解散しました。

以上、安全でかつ大変有意義なサマースクールとなりましたことをご報告いたします。これも日本製鉄株式会社の全面的なご協力によるもので、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。



高炉前にて(東京電機大 佐藤研, 東洋大 松元研)



同(工学院大 鈴木・金田研)



同（東京電機大 五十嵐研）



同（東京電機大 桑名研）



特別講演の様子



ポスターセッションの様子



日本製鉄鹿島人材育成センター前にて